農村地域の将来に対する住民の心の内と真の地域の魅力への接近

安部夏輝・石田結衣・石田美月・伊藤みるく・今久保澪・蔭佐来未・桑田朋香・小林優翔・駒坂有紀・佐々木梨央・貞兼玲桜華・田儀千尋・利光舞・内藤野々香・ 長尾真心・中佐古望美・藤田那乃羽・山内健生・山口紗果・戌徳紗英・加藤香華・四方萌音・鈴木水結・中本汐音・福本愛菜・藤田理紗子・前田日向・松田未優・山根史博

【問題意識①】

地域活性化のために「地域の魅力」を発掘し、発信すべき? ← よく出てくるアイデア

特産品?農村観光?

都市住民にとって商品価値の あるものだけが地域の魅力?

商品価値にばかり

着目すると・・・ 都市住民:お客様 地域住民:その愛顧を求める側

という階級意識の定着

大抵の人はお客様側になりたいはず・・・ (だから地域から人が出ていく?)

我々が気づくべき・感じるべき「地域の魅力」は他にあるのでは?

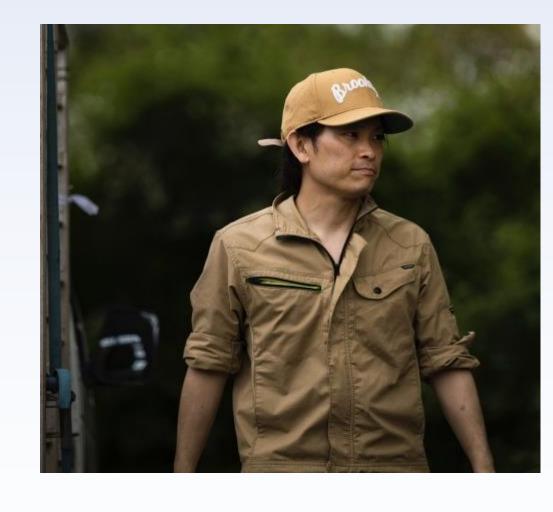
【問題意識②】

学校教育という枠組みだけで、地域活性化に貢献することは可能?

学生たちが地域のことを少しでも 知り、考える機会にはなるが、 **座学や数回の現地訪問**がせいぜい

地域住民の心の内にアプローチしきれないまま、 (学生に) 地域について十分理解し、考えた気にさせてしまわないか?

その繰り返しが地域住民を傷つけることにならないか?



【我々を受け入れてくれた農家さん】

- ◆ 吉岡 康仁(こうじ) 通称:コメサンタ
- ◆ 1987年生まれ、300年続く米農家の17代目
- ◆ 大和町を活性化するため、同志を募って稲刈り体験や コメフェス(亀山神社での収穫祭)を開催
- ◆ Instagramユーザー名: komesanta_koji

【どうしても接近したかったこと】

地域の活性化は難しい、でも彼はそれに挑戦せずにはいられない 彼はなぜ今の活動を始めたのか?

彼は何を望み、何に苦悩し、何を喜びとしているのか?

尋ねても、ヨソ行きの答えしか聞けないかもしれない 農作業や農村体験を経験させてもらう中で交流を重ね、彼に寄り添うことで 少しでもそれを感じとれるようになりたい





おでんと焼き芋をいただいた

宮司さんは好々爺だ



康仁さんと昼食と取りつつ 今年1年間、大和町で取り組みたいこと・スケジュールを協議

2月:もち搗き

大和町で絶対にやってみたかったもち搗き 康仁さんのお父さんに搗き方やちぎり方、 丸め方を教えていただいた





康仁さんを囲んで親せきの集まりのよう



今年から大和町のワイナリーでぶどう栽培も体験させていただくことになった ナチュラルワインをつくるそうだが、なぜわざわざ手間のかかるワインをつくろう とするのか、そこにアプローチしていきたい













葉っぱの色などからぶどうの健康状態

簡単に肥料や水を与えてしまうと

を読み取っているそうだ

(人間も同じだ)

強く育たないとも語っていた

少しでも楽しい祭りになるよう 学生たちが主体的に企画・運営 のお手伝いをさせてもらっている

康仁さん主催のコメサンタフェス

9月:コメサンタフェス(↓去年の写真)

今年は余興で本学のダンス部にダンスを披露してもらう予定 康仁さんの願いの1つは子供たちに楽しい思い出を作ってもらうことだ

